

## 尺度使用マニュアル

### <尺度名>

多次元完全主義認知尺度

### <測定概念>

完全主義の認知の生起頻度を測定する尺度。完全主義の認知とは「完全主義の代表的な信念である自己志向的完全主義 (Hewitt & Flett, 1991) が活性化し、意識化した思考で、の中に生じた思考で、物事の解釈の仕方や注意の向け方に影響を与えるもの」と定義される。

高目標設置の認知、ミスへのとらわれの認知、完全性追求の認知の3次元がある。研究の目的に応じて、「過去2週間で、どのくらい体験したか」から「いま、どのくらい強く体験しているか」までのタイムスパンで、思考の生起頻度を測定できる。

### <予想される適用範囲>

高校生以上の全ての集団で、日本語の読解が可能な者

### <尺度構成手続き>

1. 過去の文献などから「自己に関する完全主義的な思考」について項目を作成
2. 大学生428名に調査を実施し、項目の選定、因子的妥当性、内的一貫性、再検査信頼性を検討
3. 大学生198名に調査を実施し、構成概念妥当性を検討

### <信頼性>

因子的妥当性については文献を参照のこと。内的一貫性は、高目標設置 = .85、ミスへのとらわれ = .80、完全性追求=.83。2週間の再検査信頼性は、高目標設置 = .69、ミスへのとらわれ = .67、完全性追求 = .62。

### <妥当性>

下位尺度全てが自己志向的完全主義尺度 (Hewitt & Flett, 1991) と中程度の正の相関、完全主義認知尺度 (Flett et al., 1998) と高い正の相関を持った。

高目標設置はポジティブな自動思考質問紙 (Ingram & Wisnicki, 1988) と中程度の正の相関を持ち、ミスへのとらわれと完全性追求は自動思考質問紙 (Hollon & Kendall, 1980) と中程度の正の相関を持った。詳細は文献を参照のこと。

### <採点方法>

単純合計したものが総得点。下位尺度は以下のように計算する

高目標設置の認知=項目 (2+5+8+11+14)

完全性追求の認知=項目 (1+4+7+10+13)

完全性追求の認知=項目 (3+6+9+12+15)

### <尺度の使用について>

項目を改変する場合は著者にご相談下さい。下位尺度のうち1つまたは2つを単独で使用することは可能。

(解釈方法)

高目標設置の認知はポジティブな完全主義の認知、ミスへのとらわれの認知と完全性追求の認知はネガティブな完全主義の認知と解釈する

(出典文献)

小堀修・丹野義彦 2004 完全主義の認知を多次元で測定する尺度作成の試み. パーソナリティ心理学研究.

Kobori, O., & Tanno, Y. (2005). Self-Oriented Perfectionism and its relationship to positive and negative affect: The Mediation of Positive and Negative Perfectionism Cognitions. *Cognitive Therapy and Research*, 29, 555-567.

<連絡先>

氏名：小堀修

所属：Institute of Psychiatry, King's College London

住所：Department of Psychology, POBox 077, Institute of Psychiatry, King's College London,  
De Crespigny Park, Denmark Hill, London, SE5 8AF, UK

電話：+44-(0)20-7848-0665

e-mail：Osamu.Kobori@iop.kcl.ac.uk

<無料・有料の別>

無料

<著作権関連情報>

特になし

<その他>

現在、英語版を作成中。英語の尺度項目を使用したい場合は著者まで連絡下さい。